

## 平成27年度長岡京市防災会議 議事要旨

日 時：平成28年3月22日（火）午後2時～

場 所：市役所大会議室 A

出席者

会長：中小路市長

委員：土屋委員、佐々谷委員、藤澤委員、河内委員、石田委員（三沢委員の代理）、中澤吉春委員（竹内委員の代理）、仁科委員、山田委員、池田委員、山口委員、上村委員、上地委員、水谷委員、長谷川委員、中澤明彦委員、山田委員、吉田徳一委員、中澤啓之委員（吉田誠委員の代理）内原委員（飛田委員の代理）、若木委員（村上委員の代理）、石垣委員、梶原委員、西村委員、堀委員、加藤委員、奥本委員

あいさつ（中小路会長）

今年は東日本大震災から5年目という節目の年を迎えた。被災地ではまだ多くの方々が避難生活をしており、節目というよりも通過点かもしれないが、東日本大震災で犠牲になられた方に改めて哀悼の誠を捧げるとともに1日でも早い復旧を願っている。

さて、近年、日本を取り巻く気象状況も変化が激しく、昨年には9月に台風18号で北関東を中心に大きな雨水による被害も生じている。また本市でも7月の台風11号の際には24時間雨量が観測史上最大の278ミリを超え、市西部地区では土砂災害警戒情報による避難勧告、また東部地区では氾濫水位を超えたため避難準備情報を発令し、約1万2000世帯に避難の呼びかけを行った。このように近年は気候変動による温暖化等の異常気象により、豪雨が多発している。災害の規模も大きくなっていると実感している。

今後地震についても、南海トラフ地震が30年の間に約70%の確率で発生すると言われており、市民の間でも防災に対する関心は高まっていると考える。本市でも来年度28年から、新たな第4次総合計画による15年間のまちづくりをスタートさせる年だが、この計画の中で3つの戦略目標を掲げている。1つ目は定住の促進、2つ目は交流の拡大、そして3つ目はまちの新陳代謝の拡大。何よりも街の安心安全の確立が重要であることは言うまでもない。来年度から災害ボランティアセンターの充実、やハード整備、地域コミュニティでの防災訓練充実や、情報伝達手段の多様化などの課題に取り組むための予算を議会にお願いしている。

今回の防災会議では様々な意見を出して頂き、長岡京市の安心安全のまちづく

りを進めていきたいと考えている。本日はよろしく申し上げます。

## 事務局より案件1「平成27年度事業報告について」の説明後に審議。

委員 7月に避難所開設された際には、実際に何名の方が避難したのか？

事務局 西部の土砂災害の避難については、長法寺小学校、長岡第五小学校、長岡第四中学校、滝ノ町保育所の4か所に82名が避難した。桂川の氾濫に対する避難については、長岡第八小学校と長岡第九小学校の2か所に21名の方が避難した。合計103名。

委員 全国的に見て、避難命令を出してもなかなか避難されないケースが多いと思うが、それは情報が共有されていないからだと思う。例えば、雨が降り続くとどこでなにが起こるのか住民に伝わっていないのではないか。また、遅れて避難をすとかえって危険であり、避難が遅れた場合はどうすればよいのかということも住民の方に伝わっていない。情報に関する啓蒙活動をして欲しい。

会長 避難情報を出すのは住所単位であるが、今回西部地域で出したのは土砂災害の警報なので、本来一番危ないのは土砂災害防止法に基づくレッドゾーンやイエローゾーンの人である。その他の地域は雨も降り続けているので、むしろ家に待機して頂いた方が安全という場合もあり、判断が難しいのではないかと実感している。土砂災害警戒地域にお住まいの方で実際に避難された方の割合はどの程度か？

事務局 避難者82名のうち55名が土砂災害警戒地域にお住まいの方である。

会長 その意味では、ハザードマップを活用し、お住まいの地域がどのような場所か知ってもらうのが大切であり、55名の土砂災害警戒地域にお住まいの方が避難されたということは一定の成果が表れているのではないかと思う。

もうひとつ難しいのは、時間帯の問題である。7月の台風11号の際には西部を避難勧告に切り替えたのが深夜0時近くであった。東部の避難準備情報を出させてもらったのも深夜1時40分であった。深夜に避難情報を出し、実際に住民の皆さんが避難できるのかということもあるので、深夜に避難情報を出すことは大変シビアな判断をしなくてはいけないと感じた。

今回実際に避難所を開設して発見した課題等をしっかり整理し、今後にかかしていきたい。

事務局より案件2「災害時要配慮者支援対策に関する平成27年度の取組みについて」の説明後に審議。

会長 同意名簿の更新と個別計画の作成では民生児童委員の方や自治会に大変ご協力頂いており、感謝を申し上げたいと思います。自治会長会奥本委員どうですか？

委員 同意名簿に同意をされない方もいらっしゃるが、強制はできない。自治会長会では自治会に入っていない方に対する心配など様々な議論があるが、自治会長の皆さんには制度に納得頂きご協力頂いている。

会長 民生児童委員の梶原委員どうですか？

委員 毎年更新の時に要配慮者の支援者の方が見つからない。それをお願いに行くのが私たちの仕事かと思い努力している。

会長 近くに家族がいらっしゃるケースなどは一定の個別計画はある程度は想定できるが、おられないケースがこれからの大きな課題であり自治会の皆様にも、これからもお世話にならないといけなと思っています。

事務局より案件3「長岡京市地域防災計画の改正（案）について」の説明後に審議。

会長 西代里山公園が整備されたことに伴い、広域避難場所の追加が生じた。これにより、北部・中部・東部・西部という区切りで広域避難場所を見直した。

災害警戒本部の改正については、平成28年度の長岡京市の大幅な組織改正に伴い変更が生じている。防災に関しては、総務部危機管理監という名称が市民協働部防災・安全推進室に変更になった。また、同じ市民協働部のなかで、これまで自治会を担当していた総務課とこれまで企画部にあった校区単位の地域コミュニティを担当していた部署が一緒になって自治振興室という新たな部署ができる。このことは、地域の防災訓練が重要になってくるため、防災の部門と自治振興の部門を一つの部の中で一体的に推進をしようという想いをこめ、組織の変更を行った。

併せてハード整備の面では、これまで建設交通部の土木課が担当していた雨水対策の河川の対策と、上下水道部がやっていた下水の排水の対策

を一体となって行う建設交通部道路河川課という新たな課を新設した。最後に昨年設置した災害ボランティアセンターに平成28年度に新たに専任の職員を1名置き、体制の充実を図るとともに、これまでは、

社会福祉協議会にあったという兼ね合いから福祉援護班に入っていたが、やはり災害ボランティアセンターは災害対策本部と直轄でやりとりできる位置付けにしておかなければならないということで、今回提案するものです。

委員 屋外避難場所の西代里山公園が新設されたが、昨年も西山一体で軽度な土砂災害が起こっているが、新たに開発された場所での安全性は？

事務局 土砂災害防止法に基づく京都府の基礎調査結果により北側には急傾斜地の崩壊及び南側には土石流による土砂災害警戒箇所が存在しているが、いずれも小泉川の河川改修や京都縦貫道の整備の関係でリスクが軽減され被害は及ばないと報告を受けている。

**事務局より案件4「平成28年度事業計画（案）について」の説明後に審議。**

会長 これから向こう5年間で各小学校区で一斉に同じ日の同じ時間帯に防災訓練を実施するという目標を今回掲げた。これまでは総合防災訓練として一年に一校ずつ実施していくと10校区あるので10年に一回だけの防災訓練となっていた。この間最近では、校区ごとや自治会ごとで防災訓練に取り組んでいただいている地域も増えてきているが、まだ全ての校区で防災訓練を開催されているという経験もないので、特に地域コミュニティを中心に働きかけをさせていただきながら、是非5年後には同時に毎年防災訓練が開催できるようにしたい。これは、実際に地震災害が発生した場合は同時に全ての校区が被災することになるので、そういう体制を目指していきたい。防災行政デジタル無線については、MCA方式で今回新たに35台を導入して災害時の連絡連携体制に重点をおいていきたいと思っている。消防団にもそれぞれ配備ができる体制になりますし、実際に避難所等でのやりとりにも活用できるものと考えている。災害ボランティアセンターの体制強化については、専従職員を一人置くということで、さらに、そこを中心としながら特に地域のなかで行政に頼らずに防災訓練を実施できるような体制をつくっていききたいということで、地域の防災人材の育成にも災害ボランティアセンターを中心としながら取り組んでいきたい。その他様々な新たな取組みに向けて実施していきたいと考えている。

委員 確認ということで、主な防災関連事業の平成28年度の11月20日

が第5小学校の防災訓練、これは昨年が第4小学校でしたので、校区ごとというのは、順番でいけばその次の年は第6小学校ですか？

事務局 基本的には順番になるのですが、これまでの学校施設の校舎や体育館等の耐震化工事や平成21年度から平成25年度まで5か年でマンホールトイレの整備工事の関係で開催順は前後している。一定一巡はしているが、次が第6小学校であるとはお答えできない。

委員 地域防災力強化に向けた新たな取組の中で、小学校区一斉防災訓練の実施について、5年以内に実施するというので、まだ年度は決定ではないですね。

事務局 平成32年度までに実施できればということです。

委員 今現在、自治会が57あります。一斉となれば、やはり準備期間も早い目に必要ではないかなと思います。

会長 5年後にできる体制までなんとかもっていきたいなと思っていますし、そうなれば、毎年の総合防災訓練のように全て市役所や関係事業所の皆さんにもご協力いただいてというような体制が組めないことにもなってきますので、このあたりは、しっかりと自治会や自主防災会の皆さんと相談しながらやっていかなければならないと思っています。まずは、校区ごとで防災訓練ができるぐらいまでのことを積み重ねていかないと事実上なかなか難しいのではないかなという面もあるが、これはひとつの目標としてご理解いただければと思っています。

委員 今年3月6日に第10小校区では校区で防災訓練が実施しましたが、他の校区で実施されている校区、今まで実施された校区はありますか？

事務局 現在把握しておりますのは、第5小学校、第7小学校はこれからですけど、第10小学校区と合せて3校区です。

委員 第10小学校区での訓練では流がスムーズに進められたが、現実はどうではないと思うが、他の校区の訓練はどういう状況ですか？

事務局 第10小校区については、まずは校区の皆さんで打合せを行っていた

だいて、その上で、まず、12月に避難運営訓練を行っていただき、  
て、その後で3月に再度避難訓練を実施されたということで、かなり  
地域の中で合意形成が図れたのではないかなと思います。  
第5小学校については、かなり自治会数が多いので、合意形成を図る  
上で、かなりの回数で地域の方々にコミュニティ単位で打合せを行っ  
ていただいて、また、その中で避難所運営ゲーム「HAG」を経験し  
ていただくなりして、この避難運営訓練に結びつけたという経過があ  
りますので、その他地域についても、第5小学校や第10小学校の取  
組みをモデルして、来年度以降啓発に努めていきたいと考えています。

会長 この間、いろんな校区でやっていただいているような実績も踏まえて  
やりかたのノウハウは大分蓄積してきているのではないのかなと思  
いますので、それを各校区に還元していくことが、これからは重要だ  
と思うのでまたよろしくお願いします。

#### 案件5 その他について

委員 今の2、3、4の案件なんですが、もう一步進んで今タイムラインと  
いう考え方があって、いつ、どこで、だれが、何をするかということ  
を決めておくという、発災前、発災後ですね。それを決めておくとい  
うふうにもう一步進んでいただければと思います。そうすることによ  
って住民の方も、ここにある配慮者の方も、いつ、どこで、何をす  
るかというのを回りの人が決めておく、あるいは、今の避難ルートで本  
当に避難できるのか、あるいは、車イスに乗って避難できるのかどう  
かということも考えられると思うので、これは自助・共助・公助のそ  
れぞれがタイムラインを考えるということを一歩進んでやっていただ  
ければいいかなと。

それと安全・安心とは、安心は技術なので、当然、先ほどあった土砂  
災害も安全ということは言い切れない。何ミリ以上雨が降れば崩れる  
こともあるので、そういうものを情報共有していくということが重要  
かなと思います。例えば雨ですと10分間に8ミリの雨が續くと、下  
水とか小河川が溢れます。これは日本国中どこでもですね。その時に、  
周りのどこが浸るか、避難経路のどこが危険かということも分かる  
ので、そういうことも含めてタイムラインという考え方で、いつ、だ  
れが、どこで、何をするか、それを具体的に決めていただくのが、こ  
こでいう命を守ることだと思うので、できればそういう方向でしてい  
ただければと思います。

会長 より発災時にどう動かなければならないのか、何をしなければならぬのかをリアルに共有していくということが非常に重要だと思いますので、是非、ご指摘を踏まえて対応していきたいと思っておりますし、やはり、今の安全に対する考え方も情報共有ということが、如何に大切かなというのが、今回の避難所開設の際にも感じているところでありますので、しっかり受け止めさせていただきたいと思っております。

あいさつ（土家職務代理者）

本日は、お忙しいところ、委員の皆様には、ご出席いただきましてありがとうございます。先ほど、ご審議いただき、また、ご助言をいただきましたように、今後、屋外避難場所の拡充、また、防災行政デジタル無線の導入、さらには、災害ボランティアセンターの体制の充実、また、南部地域防災センターの整備など、地域防災力の一層の強化につきまして、しっかりと取り組みを進めていきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

年度が替わりますと、すぐに梅雨の季節がやってまいりますし、また、夏の豪雨の時期がやってまいります。そういう意味では、私どもしっかりと緊張感をもって対応していきたいというふうに思っております。今後、関係機関、関係団体の皆様としっかりと連携を重ねさせていただきながら防災対策、減災対策を進めていきたいと思っておりますので、どうかご協力いただきますようよろしく願いを申しあげまして、閉会のあいさつとさせていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。

以上をもって会議終了となる。